

氏名（本籍）	吉田 奈穂子
学位の種類	博士（芸術学）
学位記番号	博甲第 9161 号
学位授与年月	平成 31年 3月 25日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	シュタイナー学校における造形教育の特質とその展開

主査	筑波大学教授	博士（芸術学）	石崎 和宏
副査	筑波大学教授	博士（芸術学）	直江 俊雄
副査	筑波大学助教	博士（芸術学）	大久保 範子
副査	群馬大学教授	博士（芸術工学）	茂木 一司

## 論文の内容の要旨

吉田奈穂子氏の博士学位論文は、ルドルフ・シュタイナー（Rudolf Steiner, 1861~1925）が創設し、世界各地に広がっているシュタイナー学校における教育実践について、とくに造形教育の観点からその特質を明らかにしたものである。その要旨は以下のとおりである。

本論文は、序章・終章を含めて全6章ならびに補章からなる。序章では本論文の目的、先行研究、方法などについて述べている。研究目的は、発祥地のドイツに加えて、世界各地で展開されているシュタイナー学校のうち、とくに東アジア地域（中国、台湾、韓国、日本）に焦点を当て、その造形教育がどのように実践されているかを明らかにすることであるとしている。先行研究として欧米ならびに日本におけるこれまでの研究を通覧し、(1)シュタイナーの人物に関するもの、(2)シュタイナーの思想に関するもの、(3)シュタイナー学校とその教育実践に関するもの、の3類型にまとめて論じた上で、本研究の意義として、芸術的な活動が教育全体において重要な役割を担う同校の教育について、造形教育の視点からカリキュラム全体の特色を示すこと、本国ドイツとは異なる文化圏においてその特質がどのように展開しているかを解明することなどを示している。研究方法として、シュタイナーの著作の検討、吉田氏が参加して修了したニュルンベルク・シュタイナー学校（Rudolf Steiner-Schule Nürnberg）における教員養成課程の授業内容の分析、シュタイナー学校を統括する組織である自由ヴァルドルフ学校連盟の資料調査、ならびに各地のシュタイナー学校における実地調査等から、シュタイナーの思想と現代における造形教育の授業実践との関わりについて、国際的な視野で探究していくことを述べている。

第1章では、シュタイナー学校における造形教育の理論的な基盤について述べている。第一に、同校の教育理念の基礎となるシュタイナーによる人間観について、著作、講演録に加えてシュタイナー学校教員養成課程の科目である「一般人間学」の内容等をもとに独自に考察している。第二に、シュタイナーの思想の中でも、とくに芸術に関わる側面について焦点を当てて論じている。第三に、

世界のシュタイナー学校に共通する教育課程における造形教育の内容と方法について、文献に基づいて詳細に明らかにしている。

第2章では、第一にドイツのシュタイナー学校の歴史、第二にニュルンベルク・シュタイナー学校の歴史、環境、教育課程における造形活動の内容等を現地調査に基づいて詳細に明らかにした後、シュタイナー学校の教育課程の特色である「エポック授業」と「専門教科授業」に分けて造形教育の特色を考察している。

第3章では、東アジア（中国、台湾、韓国）のシュタイナー学校を実地調査した結果をもとに、各学校の教育課程における造形教育の役割を詳細に論じている。

第4章では、日本において活動しているシュタイナー学校のうち3校に焦点を当て、実地調査した結果をもとに、それぞれの学校における「エポック授業」と「専門教科授業」の造形教育の実態について詳細に述べ、その特徴を明らかにしている。

終章では、各章における成果をまとめた上で、調査した各地域のシュタイナー学校における造形教育の特徴を、シュタイナーの発達論における主要概念である「意志」「感情」「思考」に対応してまとめることによって、同学校における造形教育の一貫性と地域的多様性を明らかにしている。

なお補章として、著者が日本の公立小学校の図画工作科において実施した、シュタイナー学校の造形教育をもとにした授業題材について報告している。

## 審査の結果の要旨

### (批評)

教育課程の中で芸術教育が独特の位置を占めているとされてきたシュタイナー学校について、発祥国のドイツ、そしてアジアの中では先駆けて同学校の教育を導入してきた日本、さらに近年、同学校の教育の普及が進められつつある中国、台湾、韓国における実地調査をもとに、造形教育の観点からその教育内容の詳細な解明と比較を行なった点は高く評価できる。とくに、実際に行われている造形教育の現象を捉え、「意志」「感情」「思考」等のシュタイナー教育における主要な発達概念との関わりにおいて考察し、地域や文化を超えて共有される同学校の教育理念の一端を明らかにした点は特筆される。本論文は、シュタイナー教育の世界的な普及について、造形教育を起点とする成果と課題を示す点において価値があり、今後も同教育についてアジアを始めとする多様な文化圏における展開に資する研究として発展させることを期待したい。

平成31年1月21日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（芸術学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。